

社会貢献活動

基本的な考え方・方針

オリンパスグループ社会貢献方針

オリンパスは、技術や人員などの経営資源を活用し、事業以外でも社会に貢献していきたいと考えています。2005年3月に「社会貢献方針」を制定し、社会貢献活動でオリンパスがフォーカスすべき領域として、「医療・健康」「文化・芸術」「地球環境」「科学・技術」の4つをあげています。役員および従業員が主体的に実施する活動も含め、オリンパスらしい社会貢献活動を実施します。

オリンパスグループ社会貢献方針

オリンパスグループ(以下、「オリンパス」という)は、すべての企業活動の基本思想である「Social IN」に基づき、社会と良好な関係を築き、社会とオリンパスが持続的に発展するため、地域住民や国際社会を含むステークホルダーの意見を積極的に聞く姿勢を持ち、企業活動を行う国や地域の文化や慣習も尊重して、地域社会と協調して、その発展と向上に貢献します。そのために、事業を通じて社会に価値を提供すると共に、事業活動を通じて獲得した経営資源を社会課題の解決に活用し、役員および従業員が主体的に実施する活動も含め、オリンパスらしい社会貢献活動を実施します。

1. 重点領域

「医療・健康」、「文化・芸術」、「地球環境」、「科学・技術」の領域を中心に社会貢献活動を実施します。

2. 重点とする活動

重点領域のうち、下記3つに該当する活動に重点的に取り組みます。

1. 将来を担う次世代人材の育成、教育支援活動
2. 当社の事業が関連する領域の社会的課題に関する市民向け啓発活動
3. グローバル企業として責任のある国際社会課題の解決に寄与する活動

3. 地域社会への取組み

重点領域や重点とする活動にかかわらず、企業活動を行う国や地域社会と協調するために、地域の文化や慣習を尊重しながら、地域社会の発展に貢献する活動や寄付・寄贈などを行います。また、重点領域や重点とする活動にかかわらず、貧困や飢餓の低減や若年層への教育の機会提供などの人道的な慈善活動や、大規模災害発生時の緊急支援活動にも取り組みます。

4. 活動の促進

すべての役員および従業員の社会貢献に関する意識向上を図ると共に、社会貢献活動を促進する施策の充実を図ります。

5. 情報公開

ステークホルダーを始めとして、社会の要請を取り入れながら、社会貢献活動の継続的な改善に努め、その取組みを広く社外に公開します。

「オリンパスグループ社会貢献方針」の各重点領域における社会貢献活動

「医療・健康」領域

■ 新興国の内視鏡外科医育成

新興国の医療発展に貢献するため、オリンパスは新興国における医師育成活動を支援しています。2015年度は独立行政法人 国際協力機構(JICA)より開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業の委託を受け、タイとインドネシアの医師に対し研修機会を提供しました。日本および両国医学会・医療機関の協力の下、日本の医師が講師として派遣され、両国および日本において研修が行われました。

研修では、研修生が熟練した講師の指導の下、最新の内視鏡外科手術や日本独自の技術認定医制度などを学びました。当社は、このような活動により、新興国に低侵襲治療が普及し、医療水準の向上につながることを期待しています。



内視鏡外科医を育成する研修

■ 健康応援サイト「おなかの健康ドットコム」

おなかの病気やがん検診、内視鏡による検査や治療に関する情報を提供するWebサイト「おなかの健康ドットコム」を2004年2月から公開しています。医師の監修の下、内視鏡の役割や検査の受け方、胃や大腸など各臓器の働きや代表的な病気について分かりやすく解説しているほか、毎年、内視鏡および内視鏡検査の理解促進を目的として、「内視鏡検査に関する意識アンケート」を実施しています。

2016年は全国25,177名からアンケートにご回答いただき、7月14日の「内視鏡の日」の時期に合わせてアンケート結果を発表しました。

WEB おなかの健康ドットコム <http://www.onaka-kenko.com/>



おなかの健康ドットコム

「文化・芸術」領域

■ 国際協カイベント「グローバルフェスタ2015」

外務省などが主催する日本最大級の国際協カイベント「グローバルフェスタ JAPAN 2015」に参加しました。写真コンテスト「Picture This: We Can End Poverty(世界を写そう：私たちは貧困を終わらせる)」(2010年)の受賞作品を展示したほか、外務省主催の写真展の賞品として、デジタルカメラやICレコーダーを提供しました。オリンパスは、こうした取り組みを通じて、貧困と飢餓の撲滅をはじめ国際社会が達成すべき目標を掲げた「ミレニアム開発目標(MDGs)」の普及に協力しています。



「グローバルフェスタ2015」におけるオリンパスのブース

■ 「親子の日」への特別協賛

2003年から始まったソーシャル・アクション「親子の日」に特別協賛しています。写真家ブルース・オズボーン氏が提唱し、毎年7月第4日曜日が「親子の日」と定められています。

同氏が100組の親子を1日で撮影する「親子の日 スーパーフォトセッション2015」が開催され、オリンパスは撮影機材の協力のほか、写真投稿コミュニティーサイト「Fotopus(フォトパス)」において写真コンテストの運営にも協力しました。



「親子の日」写真コンテスト

「地球環境」領域

■ 第4回「未来に残したい海」プロジェクトin沖縄

オリンパスは、2011年度から「森林・河川・海における水の循環」をテーマに環境保全活動に取り組んでいます。この一環として、また自社が取り組む環境月間の企画として6月の2日間、NPO法人美ら海振興会の協力を得て沖縄の美しい海を守るためにサンゴの植え付け活動を実施しました。



ボランティアダイバーによるサンゴの植え付け

■ 製造拠点周辺地域の河川清掃(会津、白河、青森、長野)

医療用内視鏡関連製品の製造拠点である会津オリンパス(株)、白河オリンパス(株)、青森オリンパス(株)と、顕微鏡・工業用内視鏡の製造拠点である長野オリンパス(株)は、それぞれの周辺地域における河川の清掃活動を行いました。「河川における水の循環」をテーマとした環境保全活動としてはもちろん、清掃活動による地域貢献、従業員とその家族の健康増進活動も兼ねた活動となっています。



長野オリンパスによる河川の清掃活動

「科学・技術」領域

■ わくわく科学教室

「子どもたちに科学のおもしろさを伝えたい」という願いの下、2003年から従業員のボランティア団体「わくわくプロジェクト」が、会社の支援するボランティア活動として、技術開発センター(東京都八王子市)近隣の小中学生を対象に科学教室を行っています。この活動は会社主催イベントとしても広がり、2015年は会津オリンパス(株)が近隣の中学校向けに「わくわく科学教室」を実施しました。



会津オリンパスによるわくわく科学教室

■ 第56回自然科学観察コンクール

未来を担う子どもたちの「科学する心」を育てるため、小中学生の理科の自由研究を募集・表彰する「自然科学観察コンクール」(通称：シゼコン、主催：毎日新聞社、自然科学観察研究会、協賛：文部科学省)に1960年から50年以上にわたり協賛しています。過去の受賞者・参加者の中には、このコンクールをきっかけに研究職に就いた方もいます。第56回となる2015年は全国の小中学校760校から13,091点の応募がありました。



シゼコンの
「入賞作品ガイド集」

海外における社会貢献活動

欧州

■ 貧困層への医療機会提供

欧州のグループ各社では、人道医療支援に取り組む国際NGO「世界の医療団」のサポートの下ドイツの団体が行う、健康保険のない人々のために医療を提供するプロジェクト「Migrants Medicine」に協力しました。クリスマスの時期に合計1万3,000ユーロを寄付し、社会的弱者と移民の多い地区の女性および子どもが特別な治療を受けられるようサポート。また、移民向けの診療所に自社製の顕微鏡を寄贈することで、婦人科領域のスピーディーな診断および、より多くの人々に対する診断の実現に貢献しました。



「Migrants Medicine」により診療機会を提供

■ 血液のがんの克服に向けたドナー登録イベント

Olympus Surgical Technologies Europe(Hamburg)では、6月5日の「世界環境デー」に、世界最大の骨髄ドナーセンターであり、450万人を超えるドナーとともに血液がんを克服するという長期目標を持つ団体「DKMS」に合計1万ユーロを寄付しました。また、従業員に対し、血液のがんの治療に貢献する幹細胞と骨髄の大規模なドナー登録イベントを行い、160名以上の従業員がDKMSに登録しました。



骨髄ドナーセンターに1万ユーロを寄付

米州

■ 低所得層の生徒への学習機会提供

Olympus Corporation of the Americasは、低所得層の生徒のために科学、技術、工学、数学に特化した教育プログラムを提供するNPOと協力し、毎年約8回、生徒たちに学習する日を提供しています。生徒たちに医療分野における潜在的キャリアを知ってもらうとともに、オリンパスの医療機器やカメラを使った体験学習の機会を提供しました。また従業員がボランティアで就職面接スキルを教え、彼らの前向きで生産的な未来を築くためのサポートを行いました。



教育プログラムに参加した生徒たち

■ 従業員ボランティアデー

Olympus Corporation of the Americasは「Olympus Days of Caring」という従業員ボランティアデーを設け、従業員が勤務時間を使い、地域コミュニティを対象としたボランティア活動に参加することを奨励しました。当日は、数百名の従業員がボランティア活動に参加し、貧困層への食料提供や、設備の清掃やメンテナンス、子どもたちへの絵本の読み聞かせなどを行いました。



ボランティア活動に参加した従業員

アジア・オセアニア

■ 文化貢献活動の実施と受賞

Olympus Korea Co., Ltd.は、若手アーティストの活動支援や、貧困層に対する同社所有のホールにおける芸術鑑賞機会提供、カメラを通じた青少年への教育機会の継続的な提供など、各種の文化貢献活動を行いました。これらの活動によって同社は、韓国社会の安心と心の豊かさに対する企業として評価され、韓国のメセナ協会と新聞社が主催する「第16回メセナ大賞」において創意賞を受賞しました。



自社ホールで開催したコンサート

■ 胃腸の健康促進活動の実施と受賞

Olympus(China) Co., Ltd.は、中国の人々に向けて、胃腸に関するさまざまな健康促進活動を実施しました。胃や腸のがんの発生率が高い12の重点都市においてアンケート調査と報告を行ったほか、利用者の胃腸年齢が分かるスマートフォン用のゲーム開発、6大都市における講演会、胃の形を模したコースを走る健康マラソンなどを実施しました。これらの活動が中国のオンラインメディア「人民ネット」に評価され、「2015年度企業の社会的責任大賞」を受賞しました。



胃腸の健康についての講演会